

#### 4 クラウド・IoTビジネス

## 高付加価値のクラウドインテグレーションと、IoTソリューションの展開を強化・加速

NTTアドバンステクノロジー(以下、NTT-AT)の中期事業計画の5本柱の1つとして、クラウド及びIoT関連ビジネスの拡大に注力するクラウドIoT事業本部。本稿では、AWS(Amazon Web Services)やAzureなどを活用したパブリック・ハイブリッドクラウドマイグレーションソリューションと、“ゴカンクラフト”(熟練工や専門家の五感を引き継ぐの意)をコンセプトにしたIoTソリューションの取り組みを紹介する。

### 「クラウドインテグレーション」のトータルサポートサービスを展開

クラウドサービスの採用を第一に検討する“クラウドファースト”の流れが加速するなか、クラウドソリューションBUでは、AWSやAzure等パブリッククラウドに関するスキル・活用経験を強みに、クラウドマイグレーションを含むクラウドソリューションインテグレータとして、超上流のコンサルから設計・開発・構築、移行、保守・運用までのトータルサポートサービスを展開している(図1)。

NTT-ATの強みは、コンサルフェーズでは大規模SIの上流工程経験者(上級SE)が豊富であること、開発・構築フェーズでは、最新のパ

ブリッククラウドサービスを組み合わせ、最適なクラウドサービスを実現できること、また運用フェーズでは、開発を伴う運用保守可能なチームによる運用が可能であることだ。

杉野氏は、「運用の効率化を含めたプラスαの付加価値をつけてお客様のニーズに応じていくかが重要です。グローバル・デファクトスタンダードのスピード感に追従して、最新かつ安全にいかにお客様のニーズに対応した最適な形に組み立てるかが難しいところでもあり、腕の見せ所です。そのために、開発を伴うSI案件を担う技術者集団として、人財育成にも注力しています。資格取得を奨励する全社施策も相俟って、ソリューションアーキテクトを中心としたAWS認定技術者を2018年度には一挙に20人に増大



NTTアドバンステクノロジー株式会社  
クラウドIoT事業本部  
[左]クラウドソリューションBU  
BU長 杉野 意出吾氏  
[右]ビジネスインキュベーション部門  
主査 工藤 美穂氏

し、2019度中には上級資格取得者を含め40人に倍増したいと思っています」と強調している。

AWS技術者の育成はOJTを中心に、課長クラスの有資格者が担当者を教え込むといった形で実施しているという。

### 大規模なレガシーシステムのクラウドマイグレーションも実施

クラウドソリューションBUでは、最新のクラウド技術と開発マネジメント力を活かした『能動的』ビジネス拡大へ事業の構造改革を実施。AWSエバンジェリストとして、超上流のコンサルティング提案を積極的に行うことで、クラウドの利用や移行に関する大規模案件の受注という成果も出始めている。その代表的な例が、オンプレミスとクラウド



図1 NTT-ATのクラウドマイグレーションの付加価値

の両方の良さを活かしたハイブリッド構成システムの開発・移行・保守であり、レガシーシステム（AS400）からクラウドへの大規模なマイグレーション案件である。

杉野氏は、「数年の中期にわたるご要望もお聞きしており、開発構築経験とともに更にAWS技術者のレベルアップと拡大にチャレンジしたいと考えています」と抱負を述べている。

### 人と設備のリスクを軽減するIoTソリューションをパッケージ化

NTT-ATでは、エネルギーマネジメントシステムや人流解析等、IoT関連の豊富なSI実績をIoTソリューションのユースケースとして体系化。加えて、本格導入前の確認・お試しができるIoTのPoC（コンセプト実証）環境「PoCket」（図2）を準備して提供するなど、IoTソリューションビジネスの拡大に注力している。

工藤氏は、「PoCketの環境を活用

してお客様にご説明していくなかで、工場や作業現場をターゲットにさまざまな通信方式とデバイス、ネットワーク、センサー情報の可視化方法などを組み合わせてパッケージ化したシステムを開発しました。PoCketから生まれたIoTソリューションの第一号が、工場や土木工事などの作業現場で働く作業員のリスクを軽減する“作業員みまもりサービス”です。本年4月の販売開始から多くのお問合せをいただいております。

“作業員みまもりサービス”は、リストバンド型のウェアラブルセンサーと暑さ指数（WBGT）測定器を用いて、管理者へ異常を通知するとともに、画面上でリアルタイムに表示。炎天下・高温環境での熱中症予防や、危険箇所・夜間作業での早期異常発見と対処に効果的な安全管理サービスである（図3）。

NTT-ATではこの他にも、人だけ

でなく設備のリスク軽減を目的に、配電が不可能な防爆エリア内であるため従来不可能だった装置の監視を実現する、自立電源振動センサー利用“アドオン振動センシング”や、NTTが長年培った音響技術とAIを活用した設備の異音検知サービス、スマホやアドオンカメラとAI画像認識技術を組み合わせたスマート画像点検サービスなどのIoTソリューションを提供している。

同社では、「危機管理産業展（RISCON TOKYO）2019」（10月2日～4日）において、4つのIoTソリューションを展示する。

- ①作業員みまもりサービス
- ②アドオン振動センシング
- ③学校・公共施設などを対象に、リモートでも熱中症の危険度を把握して適切な対応を可能にする「暑さ指数計測システム」
- ④運輸業の睡眠チェック義務化に対応したバイタルセンサーを用いた「睡眠見える化サービス」

### NTT-ATならではのIoTソリューションのブランディングに注力

NTT-ATでは、IoTソリューションのラインアップ拡充に加え、同社ならではのIoTソリューションのブランディングにも注力している。ブランド名は、「ゴカンクラフト（5KAN CRAFT™）」だ。

工藤氏は、「熟練工や職人などが五感で判断して技術を継承してきたことをイメージし、生産性向上・品質確保・稼働率向上・安全確保を実現していただけるようにネーミングしました」と、ブランド名に込めた想いを述べた。



図2 IoTソリューション導入ステップ

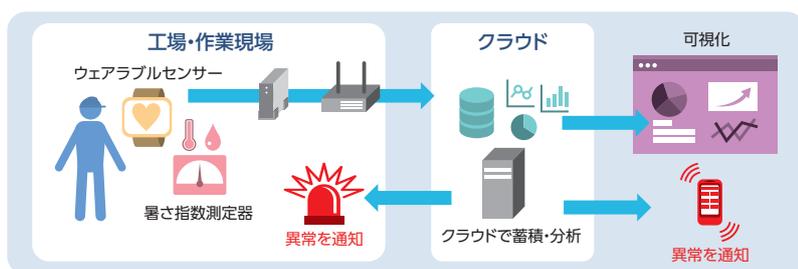


図3 作業員みまもりサービスの構成